



NEWS RELEASE

2002年6月28日

インターネットマルチフィード株式会社

IPv6 IXサービス「JPNAP6」の開始について

インターネットマルチフィード株式会社(略称:MFEED、本社:東京都千代田区、代表取締役社長:鈴木幸一)は、本日よりIPv6(Internet Protocol Version 6)に対応した分散型インターネット相互接続サービス「JPNAP6」を開始します。

日本におけるインターネットの利用は、ADSL等のブロードバンドサービスの普及とともに、常時接続による利用形態が拡大しています。これにより、今後の普及が見込まれるIPv6によるインターネット利用が加速するものと期待され、また、IPv6向けコンテンツ提供のニーズも増大しつつあります。このような動きに対応するため、MFEEDでは、IPv6に対応したIXサービス「JPNAP6」の提供を開始いたします。当面は、ネットワークの品質・冗長性の確認・検証および、運用技術の確立を行う試行サービスとして提供し、来年度の商用化を目指します。

JPNAP6の利用においては、すでに、IIJ、OCN、NTT/VERIO、MFEEDが接続を完了して技術検証を開始しています。また、7月1日から開催されるNetWorld+Interop 2002 Tokyoのインターネット接続環境であるShowNetと接続します。今後は、@nifty/FENICS、BIGLOBE、DTI、InfoSphere、InterVia/DreamNet、MEX、XePhion/WAKWAKが接続の予定です。

また、MFEEDが提供する「マルチフィードサービス」を利用しているインターネットコンテンツプロバイダ(ICP)の株式会社インプレスが、MFEEDのIPv6ネイティブネットワークを通じてコンテンツを提供する予定です。

1. 概要

(1) 名称

JPNAP6(ジェー・ピー・ナップ・シックス)

(2) サービス品目

Fast Ethernet (100Base-TX)

(3) ポート利用料金

試行サービス期間中は無料

(4) 接続場所

NTT大手町ビルおよび東京サンケイビル

(5) その他

本試行サービスは、地域レジストリ(*)よりサービス用アドレスブロック(sub-TLA(**))の割り振りを受けている方を対象とします。

2. スケジュール(予定)

2002年6月～2003年3月 試行サービス

(*) 地域レジストリ

特定地域内のIPアドレスの割り当て業務を行う団体。現在、世界でAPNIC、ARIN、RIPE NCCの3団体がある。日本は、APNIC(Asia Pacific Network Information Center)管理下に属している。

(**) sub-TLA(sub Top-Level Aggregation)

サービスに利用する目的で地域レジストリから割り振られるIPv6のアドレス空間。略してsTLAと呼ばれる。これに対して、実験ネットワークでの運用実験では、Pseudo-TLA(擬似TLA、pTLAと略す)と呼ばれるアドレス空間が割り当てられ利用されている。

[本件に関するお問い合わせ先]

インターネットマルチフィード株式会社 広報担当

電話: 03-3282-1010

FAX: 03-3282-1020

E-mail: info@mfeed.co.jp